

医療的ケアが必要な子どもたちを地域で支えるために

～移動支援と災害への備えの大切さ～

看護学部 在宅看護学・デジタルヘルスケア・センター

〇准教授 ^{おおむら か よ こ} 大村 佳代子

キーワード

孤立予防、障がい者、医療的ケア、移動支援、
災害対策



研究概要

私たちの地域には、医療的なケアを日常的に必要とする子どもたちが暮らしています。本学と協働して行った明石市の調査によると、こうしたご家庭の多くが、日々の外出や災害時の対応に大きな不安を感じていることが明らかになりました。

① 移動や外出の困りごと

医療的ケア児とその家族にとって、移動は簡単なことではありません。以下のような声が多く寄せられました。

- ◆「街がバリアフリーになっていない」(約 72%)
- ◆「医療機器などの荷物が多く、移動が大変」(約 63%)
- ◆「医療的ケアをしながらの移動には支援者が 2 人以上必要」(約 41%)
- ◆「公共交通機関が使えない」(約 44%)

これらの理由から、9 割以上の家庭が自家用車に頼って移動しています。医療的ケアの必要な子どもたちでは、バスや電車を簡単に使えないことが、生活や保護者の就労、きょうだい児を含めた社会参加の壁となっています。

② 災害への備えと不安

災害時にはさらに深刻な問題が起きます。調査では以下のような課題が明らかになりました。

- ◆「災害時に協力を得られる医療機関がない」(約 63%)
- ◆「避難場所が分からない」(25%)
- ◆「非常用電源を備えている家庭は 3 割以下」

医療機器を使っている家庭では、停電時に命に関わる危険があります。それにもかかわらず、多くの家庭が必要な支援体制を得られていません。

③ これからの地域のあり方

こうした課題に対し、市民一人ひとりができることがあります。

★バリアフリー設備情報の一元的な可視化

→公園やレストラン、商業施設などで、バリアフリー設備(エレベータ、障害者用トイレ、ストレッチャー、スロープ等)は整えられてきています。しかしどこにどのような設備があるのかが可視化されていません。今ある設備の情報を発信するだけでも、医療的ケアの必要な子どもたちと家族は移動しやすくなります。

★災害時、地域で助け合える関係づくり

→医療的ケアが必要な子どもたちが地域で日頃から外出しやすい環境づくりをすることは、災害時の避難訓練にもつながります。

★医療的ケア児(者)の存在とそのご家族の生活を知ることから

特別なケアを必要とする子どもたちが、安心して外出できる社会、災害にも守られる地域を、みんなでつくっていきたいですね！

アピールポイント

- ・明石市福祉局障害福祉課「医療的ケア児とその家族の生活に関する調査結果報告書」
https://www.city.akashi.lg.jp/documents/38403/04-2_iryoutekikeajitohogosityanotyousakekkahoukokusyo.pdf
- ・明石市 HP「医療的ケアが必要な子どもと家族のための支援サイト」

https://www.city.akashi.lg.jp/fukushi/shougai_fu_ka/iryoutekicare.html

・神戸新聞 2 月 18 日付「医療的ケア児、家族の苦境知って明石で支援考える集い 移動や外出困難、きょうだいの生活も制限」
<https://www.kobe-np.co.jp/news/akashi/202502/0018660523.shtml>